

小学校知的障害特別支援学級のための
国語科の指導内容系統表を用いた授業例
～学習指導案などの関係資料～

令和4年度 群馬県総合教育センター 長期研修員

中嶋洋平

目次

1 学習指導案	1
2 指導内容系統表(対象児Aに関係する部分のみ)	14
3 ワークシート※ ¹	16
4 めあてのカード	25

※¹ このワークシートで使用したイラストや写真は、以下の Web サイトからダウンロードしたものです。

- ・illustAC(<https://www.ac-illust.com/>)
- ・photoAC(<https://www.photo-ac.com/>)
- ・NHK for school(<https://www.nhk.or.jp/school/>)

国語科学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇曜日）第〇校時 知的障害特別支援学級 指導者 中嶋 洋平

1 題材名 「おはなしを読んで、やくにわかれて音読しよう」（『ふきのとう』（光村図書こくご二上））

2 児童の実態及び指導方針（1名）

本授業の対象児童はAである。入学時から知的障害特別支援学級（以下、学級）に在籍し、主に国語科と算数科の授業を学級で受けている。日頃から、学習に真面目に取り組むことができ、学習プリントを見たときに、一人でできそうな実感をもてると、「大丈夫です。一人でやります」と言って、一人で取り組むことも多い。分からないことがあると「わかりません」と発言することもできる。

これまでの国語科の授業で、Aはプリントを用いて、2年生程度の文章を読み、穴埋め問題に答えることを中心に取り組んできた。解答については、本文を読んだ後に質問を読み、回答欄の前後の言葉や回答を記入するマスの数と本文を見比べることで、正しく答えられることが多い。その一方で、場面の様子など、文の内容を考える様子は少ない。Aは1年生のとき、『くじらぐも』（光村図書こくご一下）の学習をした。その際、「くじらぐもに乗ったつもりで、どんな言葉を言うか考えよう」という問いに対して、「中嶋先生の家が見える」と答えており、物語の世界に入れる様子が見られた。その一方で、音読をすると文字だけを追うような読み方になりやすく、場面の様子を想像して、それを読み方に反映させることは難しかった。これらのことと、後述の指導内容系統表を基に、文の内容から場面の様子や登場人物の気持ちを考えたり、音読にも反映させたりする学習が必要だと考えた。また、教材として、『ふきのとう』（作 工藤直子 光村図書こくご二上）を取り上げることを考えた。この教材の読み取りを通じて、場面の様子や登場人物の気持ちを考えるとともに、それらを思い浮かべて音読できるようにしたいと考えた。

3 題材観

『ふきのとう』は、「お話を読んで、やくに分かれて音読しよう」という題材のために、教科書に位置付けられた、物語文である。本来はグループで読み合う活動が想定されているが、授業の対象はA一人のため、A本人が場面の様子を想像して読み方を工夫することに主眼を置く。

本教材のあらすじは、次のとおりである。冬から春にかけての寒さが残る時期に、ふきのとうは地面から顔を出したが、雪が残っているためにそれ以上伸びられない。雪は溶けて流れていきたいが、竹やぶの陰になっているために日に当たらず、溶けて流れていけない。竹やぶは風に吹かれて踊りたいが、春風が寝ぼけて吹いてこないために踊れない。それぞれが春を待つ中、お日さまが春風を起こす。目覚めた春風が息を吹くと、竹やぶが揺れて踊る。そうすると、地面に日が差して雪が解ける。そうすると、ふきのとうが伸びていく。こうして待っていた春がやってきた、というあらすじである。

本教材は、学習の見通しとして「おはなしのようすがよくわかるように、音読しよう」ということが示されているが、本文中には「そとが見たいな」「ざんねんそうです」といった登場人物の気持ちも多く表現されているため、様子がよく分かるように音読するには、場面の状況だけでなく、登場人物の気持ちを想像することも必要だと考える。そのため、気持ちを想像することを重点的に学習に取り入れたい。気持ちの想像にあたっては、氷に触れたり、重いものを持ち上げたりする活動を交えたりすることで、春を待つ植物の様子や気持ちを体感と結び付けて想像できると考える。さらに、冬から春にかけて抱いていた気持ちを発言させることで、その抑揚を音読につなげていくこともできると考える。以上のことから、本題材の学習が有効であると考えた。

4 研究との関わり

本研究は、学級の国語の授業において、児童の学びに向かう姿を引き出すために、指導内容系統表を作成し、活用した授業づくりとそれに基づく授業実践を行うものである。指導内容系統表の活用にあたっては、

まず、指導内容系統表Ⅰを用いて、重点的な指導内容の設定を行う。領域とステージの概要から対象児童の学習上のステージを決め、そのステージのスマールステップごとに◎(自分の力で完全に達成している)○(時々不十分さは見られるが、自分の力でほぼ達成することができる)△(達成に支援を要する)の三段階で、対象児童の学習状況を評価する。その中で、△が付く項目が、重点的な指導内容となる。△が付く項目は「話す・聞く」「読む」「書く」のそれぞれの領域に出てくるが、その時々々の学習状況を考慮して、取り上げたい領域を選ぶとともに、△が付く項目の中から、特に重点的な指導内容を絞り込む。そして、特に重点的な指導内容を扱う教材を選ぶ。次に指導内容系統表Ⅱを用いて、授業に向けた具体的な準備をする。Ⅰで選んだ教材についてまとめた欄の「授業の概要」や「ねらい」、「めあての設定のポイント」や「個に応じた支援例」などの項目を参照することで、学習後の児童の姿の想定、必要感のあるめあての設定、生活とのつながりへの意識付け、個に応じた支援の設定といった、具体的な準備をしていく。以上のような授業づくりとそれに基づく授業実践により、児童の学びに向かう姿を引き出すことができると考える。

Aの実態は、これまでの授業の取組をもとに、指導内容系統表Ⅰを用いて捉えたものである。まず、Aの学習上のステージは表内の「領域とステージの概要」の記述からステージ3であると考えた。また、ステージ3で評価を行うと、「話す・聞く」「読む」「書く」のいずれの領域にも△が付く項目があった。児童の実態で述べたとおり、Aは文の内容から場面の様子や登場人物の気持ちを考えて、それを音読に反映する学習をすることが必要だと考えられる。また、物語文を読み、登場人物の様子や気持ちを想像することは、「話す・聞く」の領域で相手のことを考えて話す活動や、「書く」の領域で友達に手紙を書く活動につながっていくと考える。さらに、学習時間だけでなく、余暇時間での読書の充実にもつながると考える。以上のことから、取り上げる領域は「読む」の領域とし、特に重点的な指導内容を「⑦登場人物がしたことや言ったことが分かる言葉を見付けられる」「⑧登場人物の気持ちになったり、様子を思い浮かべたりして音読できる」とした。そして、その二つを指導内容として扱う「ふきのとう」を教材として選択した。次いで、指導内容系統表Ⅱを用いて、具体的な準備をし、以下の5～8に反映させた。

5 題材の目標

(1) 知識及び技能

語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。

(2) 思考力、判断力、表現力等

場面の様子や登場人物の行動や気持ちなど、内容の大体を捉えることができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

6 題材の評価規準

(1) 知識・技能

語のまとまりや、言葉の響きなどに気を付けて音読をしている。

(2) 思考・判断・表現

「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

粘り強く登場人物の行動などの内容を捉え、学習課題に沿って音読を聞き合い、感想を伝え合おうとしている。

7 指導と評価の計画（全8時間） ※板書計画例は（7／8）時間のページを参照のこと

過程	時間	●ねらい ○学習活動 [☆]：ICT活用	知	思	態	◇評価項目＜方法（観点）＞ [記]：記録に残す評価
つかむ	1	●リード文の「はるをまつ」様子を、想像することができる。 ○写真を見て、冬と春はそれぞれどのような季節で、何があるか思い起こす。 ○春を待つ生き物の画像を見て、どんな気持ちか想像する。 [☆]			○	◇冬や春の特徴について、自分の考えを発言している。＜発言(態)＞ ◇春を待つ生き物の気持ちについて、自分の考えを発言している。＜発言(態)＞
[単元・題材（小単元）の学習課題（単元・題材を貫く問い）] とうじょうじんぶつは、どんなきもちだったろう。						
追究する	2	●竹の葉っぱになったつもりで、一つ目のまとまりを音読することができる。 ○竹の葉っぱの会話や「ささやいています」といった叙述から、場面の様子や竹の葉っぱの気持ちを想像する。 ○読み方の工夫を考えて、音読する。 [本時の学習課題]（めあて） たけのはっぱになったとおもって、おんどくしよう。 ○音読を録画したものを見る。 [☆]	○	○	○	◇「静かだ」「さむくていやだった」などなど発言している。＜発言(態)＞ ◇小さな声で会話文を読んでいる。＜音読(思)＞ ◇語のまとまりごとに音読している。＜音読(知)＞
	3	●ふきのとうになったつもりで、二つ目のまとまりを音読することができる。 ○ふきのとうの言葉や「小さなこえが」といった叙述から、場面の様子や、ふきのとうの気持ちを想像する。 ○読み方の工夫を考えて、音読する。 [本時の学習課題]（めあて） ふきのとうになったとおもって、おんどくしよう。 ○音読を録画したものを見る。 [☆]	○	○	○	◇「雪が重い」「がんばっている」など発言している。＜発言(態)＞ ◇雪をどけようと踏ん張っている様子で会話文を読んでいる。＜音読(思)＞ ◇語のまとまりごとに音読している。＜音読(知)＞
	4	●雪の気持ちになって、三つ目のまとまりを音読することができる。 ○雪の言葉や「ざんねんそうです」といった叙述から、場面の様子や、竹の葉っぱの気持ちを想像する。 ○読み方の工夫を考えて、音読する。 [本時の学習課題]（めあて） ゆきになったとおもって、おんどくしよう。 ○音読を録画したものを見る。 [☆]	○	○	○	◇「早く溶けたいけど無理」など発言している。＜発言(態)＞ ◇残念そうな様子で、会話文を読んでいる。＜音読(思)＞ ◇語のまとまりごとに音読している。＜音読(知)＞

	5	<p>●竹やぶの気持ちになって、四つ目のまとまりを音読することができる。</p> <p>○竹やぶの言葉や「上を見上げます」「ざんねんそうです」といった叙述から、場面の様子や、竹やぶの気持ちを想像する。</p> <p>○読み方の工夫を考えて、音読する。</p> <p>【本時の学習課題】（めあて） たけやぶになったとおもって、おんどくしよう。</p> <p>○音読を録画したものを見る。【☆】</p>	○	○	○	<p>◇「踊りたいけど無理」などと発言している。＜発言(態)＞</p> <p>◇残念そうな様子で、会話をしている。＜音読(思)＞</p> <p>◇語のまとまりごとに音読している。＜音読(知)＞</p>
	6	<p>●お日さまの気持ちになって五つ目のまとまりを音読したり、春風の気持ちになって六つ目のまとまりを音読したりすることができる。</p> <p>○五つ目のまとまりでは、お日さまの言葉や「わらっています」といった叙述から、六つ目のまとまりでは、春風の言葉や「大きなあくび」といった叙述から、場面の様子や、お日さまの気持ちを想像する。</p> <p>○読み方の工夫を考えて、音読する。</p> <p>【本時の学習課題】（めあて） おひさまやはるかぜになったとおもって、おんどくしよう。</p> <p>○音読を録画したものを見る。【☆】</p>	○	○	○	<p>◇「しょうがないな」などと発言している。＜発言(態)＞</p> <p>◇春風に呼びかけるような様子で、会話をしている。</p> <p>＜音読(思)＞</p> <p>◇語のまとまりごとに音読している。＜音読(知)＞</p>
	7 (本時)	<p>●それぞれの登場人物の気持ちになって、七つ目と八つ目のまとまりを音読することができる。</p> <p>○「ゆれる、ゆれる、おどる」などの叙述や、ふきのとうの言葉から、場面の様子や、願いがかなった登場人物の気持ちを想像する。</p> <p>○読み方の工夫を考えて、音読する。</p> <p>【本時の学習課題】（めあて） それぞれのとうじょうじんぶつになったとおもって、おんどくしよう。</p> <p>○音読を録画したものを見る。【☆】</p>	○	○	○	<p>◇「たけは揺れてよかった」「ふきのとうが伸びてよかった」などと発言している。</p> <p>＜発言(態)＞</p> <p>◇願いがかなってうれしいという様子で、文を読んでいる。</p> <p>＜音読(思)＞</p> <p>◇語のまとまりごとに音読している。＜音読(知)＞</p>
まとめ	8	<p>●好きな登場人物の気持ちになって、音読することができる。</p> <p>○「なんといったかな」「どうしていったのかな」といった視点を記したカードを見て、登場人物の気持ちを振り返る。</p> <p>○好きな場面を選んで、音読する。</p> <p>【本時の学習課題】（めあて） すきなばめんをえらんで、そのとうじょうじんぶつになったとおもって、おんどくしよう。</p> <p>○音読を録画したものを見る。【☆】</p>	○	○	○	<p>◇本文を読み、視点を記したカードを見ながら、「ふきのとうは外が見たいっていったよ」「雪が重かったから見られなかったんだよ」などと発言している。＜発言(態)＞</p> <p>◇「早く溶けたかったんだよ」「眠かったんだよ」と、登場人物の気持ちについて発言し、その気持ちを表すような調子で音読している。＜音読(知)(思)(態)＞</p>

8 展開（1／8）時間目

(1) ねらい

リード文の「はるをまつ」様子を、想像することができる。

(2) 準備

電子黒板、移動式ホワイトボード、ワークシート、タブレット、冬と春の画像（タブレット内に保存）、めあてなどの掲示物

(3) 展開

時間	○学習活動 ・予想される児童（生徒）の反応 [☆]：ICT活用	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ●個に応じた支援 ◇評価項目＜方法（観点）＞ [記]：記録に残す評価
導入 15分	1 学習の計画を知る。 ○単元全体のめあてを知る。 ・場面の様子が分かるように、音読するんだな。 ・登場人物の気持ちを考えるんだな。	◎必要感のあるめあてを設定できるよう、指導内容系統表Ⅱの「めあての設定のポイント」を参照してめあてを設定する。 ○学習の全体像を把握しやすくするため、表にしたりカードにしたりしてホワイトボードに掲示する。
	[单元・題材（小单元）の学習課題（单元・題材を貫く問い）] とうじょうじんぶつは、どんなきもちだっただろう。	
	2 本時のめあてを知る ○リード文を読み、教師の説明を聞いて、本時のめあてを知る。 ・今日は「はるをまつ」様子を思い浮かべるんだな。	
	[本時の学習課題]（めあて） いきものが、はるをまつようすをかんがえよう。	
展開 ① 10分	3 冬と春の様子を思い起こす。 ○画像を見て、冬と春はどのような季節で何があるか思い起こす。[☆] ・冬は寒い。雪が降る。氷がある。 ・春はあったかい。花が咲く。	○冬と春の特徴を捉えやすいように、雪や花など、明確な特徴を写した画像を用意する。 ◇冬や春の特徴について、自分の考えを発言している。＜発言（態）＞
展開 ② 10分	4 生き物の気持ちを想像する。 ○春を待つ生き物の画像を見て、どんな気持ちか想像する。[☆] ・寒い。凍っちゃう。早く春が来ないかな。	◎自分の体験と結び付けて考えられるように、雪が降った日のことや氷に触ったことを思い起こさせる。 ◇春を待つ生き物の気持ちについて、自分の考えを発言している。＜発言（態）＞
まとめ 10分	5 思い浮かべたことや想像したことをまとめる。 ○季節の様子と想像した生き物の気持ちをワークシートで結び付ける。 ・冬は寒いから、早くあったかくなつてほしいと思っていると思う。	●「ゆきがふるーはやくあったかくなつてほしい」のように、季節の様子と生き物の気持ちを結び付けやすいように、ワークシート上に記入欄を直線的に配置する。

展開（２／８）時間目

(1) ねらい

竹の葉っぱになったつもりで、一つ目のまとまりを音読することができる。

(2) 準備

電子黒板、移動式ホワイトボード、ワークシート、タブレット、めあてなどの掲示物

(3) 展開

時間	○学習活動 ・予想される児童（生徒）の反応 [☆]：ICT活用	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ●個に応じた支援 ◇評価項目＜方法（観点）＞ [記]：記録に残す評価
導入 10分	1 めあてをつかむ。 ○デジタル教科書の音読を、話の始めから終わりまで聞く。[☆] ○教師の説明を聞いて、本時の場面とめあてを知る。 ・今日は最初のところだな。竹になったと思って音読するんだな。	○まとまりごとに内容を捉えられるように、話全体の中で、どのまとまりを取り上げるのか確認する。 ●取り上げるまとまりが分かりやすいよう、話全体を一つの紙の上に表し、今日の部分を枠で囲む。 ◎必要感のあるめあてを設定できるよう、指導内容系統表Ⅱの「めあての設定のポイント」を参照してめあてを設定する。
	[本時の学習課題]（めあて） たけのはっぱになったとおもって、おんどくしよう。	
展開 ① 10分	2 登場人物の気持ちを想像する。 ○登場人物の様子をワークシートに書く。 ・一つ目のまとまりを読み、登場人物の様子や気持ちを表す言葉を書く。 ○ワークシートを見て、竹の気持ちを考える。 ・「竹は寒かったんだね」などと発言する。	○内容の大体を捉えやすくするために、ワークシート上で「たけのはっぱ—ささやいている」というように、登場人物と様子を結び付ける。 ●前時のワークシートも一緒に見て、想像した春を待つ生き物の気持ちを振り返る。 ◇「竹は寒かったんだね」などと発言している。＜発言(態)＞
展開 ② 15分	3 読み方を工夫して音読する。 ○竹の葉っぱがささやく様子が分かるよう、読み方を工夫して音読する。 ・「ささやいています」だから、「さむかったね」「うん、さむかったね」は小さい声で読もう。 ○音読を録画したものを見る。[☆]	●客観的に振り返って、次の工夫を考えられるように、タブレットで動画を録画し、見られるようにする。 ◇小さな声で会話文を読んでいる。＜音読の動画(思)[記]＞ ◇語のまとまりごとに音読している。＜音読(知)＞
まとめ 10分	4 工夫したところを発表する。 ○ささやく様子が出るようにした工夫について、発表する。 ・「さむかったね」「うん、さむかったね」は、「ささやいています」だから、小さい声で読みました。	●発表しやすいように、話型を表すカードを用意する。

展開（3／8）時間目

(1) ねらい

ふきのとうになったつもりで、二つ目のまとまりを音読することができる。

(2) 準備

電子黒板、移動式ホワイトボード、ワークシート、タブレット、めあてなどの掲示物、重りの入った袋

(3) 展開

時間	○学習活動 ・予想される児童（生徒）の反応 [☆]：ICT活用	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ●個に応じた支援 ◇評価項目＜方法（観点）＞ [記]：記録に残す評価
導入 10分	1 めあてをつかむ。 ○デジタル教科書の音読を、話の始めから終わりまで聞く。[☆] ○教師の説明を聞いて、本時の場面とめあてを知る。 ・今日は二つ目のところだ。ふきのとうになったと思って音読しよう。	○まとまりごとに内容を捉えられるように、話全体の中で、どのまとまりを取り上げるのか確認する。 ●取り上げるまとまりが分かりやすいよう、話全体を一つの紙の上に表し、今日の部分を枠で囲む。 ◎必要感のあるめあてを設定できるよう、指導内容系統表Ⅱの「めあての設定のポイント」を参照してめあてを設定する。
[本時の学習課題]（めあて） ふきのとうになったとおもって、おんどくしよう。		
展開 ① 10分	2 登場人物の気持ちを想像する。 ○登場人物の様子をワークシートに書く。 ・二つ目のまとまりを読み、登場人物の様子や気持ちを表す言葉を書く。 ○ワークシートを見たり、重さを体感する活動をしたりして、ふきのとうはどんな気持ちだったのか考える。 ・「雪が重たかったんだね」「力があるね」などと発言する。	○内容の大体を捉えやすくするために、ワークシート上で「ふきのとう一外が見たい」というように、登場人物と様子や気持ちを結び付ける。 ◎ふきのとうの気持ちを体感と結び付けて想像できるように、氷の入った袋を頭に載せて持ち上げる活動をする。 ◇「雪が重たかったんだね」「力があるね」などと発言している。＜発言(態)＞
展開 ② 15分	3 読み方を工夫して音読する。 ○ふきのとうが踏ん張っている様子や気持ちが分かるように、読み方を工夫して音読する。 ・重そうだから、「よいしょ、よいしょ。外が見たいな。」は頑張っている感じで読もう。 ○音読を録画したものを見る。[☆]	●客観的に工夫を考えられるように、タブレットで動画を録画し、見られるようにする。 ◇雪をどけようと踏ん張っている様子で会話文を読んでいる。＜音読の動画(思)[記]＞ ◇語のまとまりごとに音読している。＜音読(知)＞
まとめ 10分	4 工夫したところを発表する。 ○踏ん張っている感じが出るようにした工夫について、発表する。 ・「よいしょ、よいしょ。外が見たいな。」のところは、重そうだから、がんばって読みました。	●発表しやすいように、話型を表すカードを用意する。

展開（４／８）時間目

（１）ねらい

雪になったつもりで、三つ目のまとまりを音読することができる。

（２）準備

電子黒板、移動式ホワイトボード、ワークシート、タブレット、めあてなどの掲示物

（３）展開

時間	○学習活動 ・予想される児童（生徒）の反応 [☆]：ICT活用	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ●個に応じた支援 ◇評価項目＜方法（観点）＞ [記]：記録に残す評価
導入 10分	1 めあてをつかむ。 ○デジタル教科書の音読を、話の始めから終わりまで聞く。[☆] ○教師の説明を聞いて、本時の場面とめあてを知る。 ・今日は三つ目のところだ。雪になったと思って音読しよう。	○まとまりごとに内容を捉えられるように、話全体の中で、どのまとまりを取り上げるのか確認する。 ●取り上げるまとまりが分かりやすいよう、話全体を一つの紙の上に表し、今日の部分を枠で囲む。 ◎必要感のあるめあてを設定できるよう、指導内容系統表Ⅱの「めあての設定のポイント」を参照してめあてを設定する。
	[本時の学習課題]（めあて） ゆきになったとおもって、おんどくしよう。	
展開 ① 15分	2 登場人物の気持ちを想像する。 ○登場人物の様子をワークシートに書く。 ・三つ目のまとまりを読み、登場人物の様子や気持ちを表す言葉をワークシートに書く。 ○ワークシートを見たり、日陰と日向で氷の解けやすさを比べる活動をしたりして、雪はどんな気持ちだったのか考える。 ・「溶けたいのに日が当たらなかったらだめだね」などと発言する。	○内容の大体を捉えやすくするために、ワークシート上で「ゆきーはやくとけたい」というように、登場人物と様子を結び付ける。 ◎雪の気持ちを体感と結び付けて想像できるように、日陰と日向で氷の解けやすさを比べる活動をする。 ◇「溶けたいのに日が当たらなかったらだめだね」などと発言している。＜発言（態）＞
展開 ② 10分	3 読み方を工夫して音読する。 ○雪の早く溶けたいけど、できない残念そうな様子が分かるように、読み方を工夫して音読する。 ・「残念そう」だから、「ああだめだ」っていう感じで読もう。 ○音読を録画したものを見る。[☆]	●客観的に工夫を考えられるように、タブレットで動画を録画し、見られるようにする。 ◇残念そうな様子で、会話を读んでいる。＜音読の動画（思）[記]＞ ◇語のまとまりごとに音読している。＜音読（知）＞
まとめ 10分	4 工夫したところを発表する。 ○残念そうな感じが出るようにした工夫について、発表する。 ・「残念そう」だから、「ああだめだ」っていう感じで読みました。	●発表しやすいように、話型を表すカードを用意する。

展開（５／８）時間目

(1) ねらい

竹やぶになったつもりで、四つ目のまとまりを音読することができる。

(2) 準備

電子黒板、移動式ホワイトボード、ワークシート、タブレット、めあてなどの掲示物

(3) 展開

時間	○学習活動 ・予想される児童（生徒）の反応 [☆]：ICT活用	○研究上の手立て ○指導上の留意点 ●個に応じた支援 ◇評価項目＜方法（観点）＞ [記]：記録に残す評価
導入 10分	1 めあてをつかむ。 ○デジタル教科書の音読を、話の始めから終わりまで聞く。[☆] ○教師の説明を聞いて、本時の場面とめあてを知る。 ・今日は四つ目のところだ。竹やぶになったと思って音読しよう。	○まとまりごとに内容を捉えられるように、話全体の中で、どのまとまりを取り上げるのか確認する。 ●取り上げるまとまりが分かりやすいよう、話全体を一つの紙の上に表し、今日の部分を枠で囲む。 ○必要感のあるめあてを設定できるよう、指導内容系統表Ⅱの「めあての設定のポイント」を参照してめあてを設定する。
	[本時の学習課題]（めあて） たけやぶになったとおもって、おんどくしよう。	
展開 ① 15分	2 登場人物の気持ちを想像する。 ○登場人物の様子をワークシートに書く。 ・四つ目のまとまりを読み、登場人物の様子や気持ちを表す言葉をワークシートに書く。 ○ワークシートを見たり、傘を使って足元の光の当たり方が変わるのを見たりして、竹やぶはどんな気持ちだったのか考える。 ・「揺れたいのに風が吹かなかったからだめだね」などと発言する。	○内容の大体を捉えやすくするために、ワークシート上で「たけやぶ一ゆれておどりたい」というように、登場人物と様子を結び付ける。 ●つながりが分かりやすいよう、ワークシート上の項目を直線的に配置する。 ○竹やぶの気持ちを体感と結び付けて想像できるように、傘を持って立ったままだと足元に光が当たらないが、揺れると足元に光が当たることを確認する。 ◇「踊りたいけど無理」などと発言している。＜発言（態）＞
展開 ② 10分	3 読み方を工夫して音読する。 ○揺れたいけどそうできない、残念そうな竹の様子が分かるように、読み方を工夫して音読する。 ・「残念そう」だから、「ああだめだ」っていう感じで読もう。 ○音読を録画したものを見る。[☆]	●客観的に工夫を考えられるように、タブレットで動画を録画し、見られるようにする。 ◇残念そうな様子で、会話を読んでいる。＜音読の動画(思) [記]＞ ◇語のまとまりごとに音読している。＜音読(知)＞
まとめ 10分	4 工夫したところを発表する。 ○残念そうな感じが出るようにした工夫について、発表する。 ・「残念そう」だから、「ああだめだ」っていう感じで読みました。	●発表しやすいように、話型を表すカードを用意する。

展開（6／8）時間目

（1）ねらい

お日さまになったつもりで五つ目のまとまりを音読したり、春風の気持ちになって六つ目のまとまりを音読したりすることができる。

（2）準備

電子黒板、移動式ホワイトボード、ワークシート、タブレット、めあてなどの掲示物

（3）展開

時間	○学習活動 ・予想される児童（生徒）の反応 [☆]：ICT活用	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ●個に応じた支援 ◇評価項目＜方法（観点）＞ [記]：記録に残す評価
導入 10分	1 めあてをつかむ。 ○デジタル教科書の音読を、話の始めから終わりまで聞く。[☆] ○教師の説明を聞いて、本時の場面とめあてを知る。 ・今日は五つ目のところだ。お日さまになったと思って音読しよう。	○まとまりごとに内容を捉えられるように、話全体の中で、どのまとまりを取り上げるのか確認する。 ●取り上げるまとまりが分かりやすいよう、話全体を一つの紙の上に表し、今日の部分を枠で囲む。 ◎必要感のあるめあてを設定できるよう、指導内容系統表Ⅱの「めあての設定のポイント」を参照してめあてを設定する。
[本時の学習課題]（めあて） おひさまやはるかぜになったとおもって、おんどくしよう。		
展開 ① 15分	2 登場人物の気持ちを想像する。 ○登場人物の様子をワークシートに書く。 ・五つ目のまとまりを読み、登場人物の様子や気持ちを表す言葉をワークシートに書く。 ○ワークシートを見たり、「しょうがないな」と思ったことを振り返ったりして、お日さまはどんな気持ちだったのか考える。 ・「春風が寝坊してるなんてだめだな」などと発言する。	○内容の大体を捉えやすくするために、ワークシート上で「ふきのとう一外が見たい」というように、登場人物と様子を結び付ける。 ●つながりがわかりやすいよう、ワークシート上の項目を直線的に配置する。 ◎お日さまの気持ちを経験と結び付けて想像できるように、家族や友達とのかかわりの中で、「しょうがないな」と思った時がなかったか問い掛ける。 ◇「はるかぜがねぼうしてるなんてだめだな」などと発言している。＜発言(態)＞
展開 ② 10分	3 読み方を工夫して音読する。 ○お日さまの春風にあきれている様子が分かるように、読み方を工夫して音読する。 ・「しょうがないな」っていう感じで読もう。 ○音読を録画したものを見る。[☆]	●客観的に工夫を考えられるように、タブレットで動画を録画し、見られるようにする。 ◇あきれながら、笑っている様子が出るように音読している。＜音読の動画（思）[記]＞
まとめ 10分	4 工夫したところを発表する。 ○あきれている感じが出るようにした工夫について、発表する。 ・「しょうがないな」っていう感じで読みました。	●発表しやすいように、話型を表すカードを用意する。

展開（7／8）時間目…本時

(1) ねらい

それぞれの登場人物の気持ちになって、七つ目と八つ目のまとまりを音読することができる。

(2) 準備

電子黒板、移動式ホワイトボード、ワークシート、タブレット、話型を示すカード

(3) 展開

時間	○学習活動 ・予想される児童（生徒）の反応 [☆]：ICT活用	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ●個に応じた支援 ◇評価項目＜方法（観点）＞ [記]：記録に残す評価
導入 10分	1 めあてをつかむ。 ○デジタル教科書の音読を、話の始めから終わりまで聞く。[☆] ・今日も「ふきのとう」だな。今日はどの場面かな。 ○教師の説明を聞いて、本時の場面とめあてを知る。 ・今日は最後のところだな。春風や雪になったつもりで音読するんだな。	○まとまりごとに内容を捉えられるように、話全体の中で、どのまとまりを取り上げるのか確認する。 ●取り上げるまとまりが分かりやすいよう、話全体を一つの紙の上に表し、本時の部分を枠で囲む。 ◎必要感のあるめあてを設定できるよう、指導内容系統表Ⅱの「めあての設定のポイント」を参照してめあてを設定する。
[本時の学習課題]（めあて） それぞれのとうじょうじんぶつになったとおもって、おんどくしよう。		
展開 ① 10分	2 登場人物の気持ちを想像する。 ○七つ目から八つ目のまとまりを読み、登場人物と様子をワークシートに書く。 ・大きな抑揚をつけずに、音読する。 ・登場人物の様子を表す言葉をワークシートに書く。 ○前時までにワークシートにまとめたことを見て、それぞれの登場人物の願いを振り返り、春風が吹いてその願いがどうなったのか、それでどのような気持ちになったのか考える。 ・「竹やぶはゆれたかったんだね」「春風が吹いたから、ゆれることができたんだね」「よかった、うれしかったとおもう」などと発言する。	○内容の大体を捉えやすくするために、ワークシート上で「竹やぶ—ゆれる」というように、登場人物と様子を結び付ける。 ●登場人物と様子のつながりが分かりやすいよう、ワークシート上に記入欄を直線的に配置する。 ◎自分の体験と結び付けて考えられるように、お願いしたプレゼントをもらったときのことを思い起こさせる。また、ワークシート上で登場人物それぞれの願いと、かなったときの気持ちをワークシート上で整理させる。 ◇「竹やぶは揺れたかったんだね」「春風が吹いたから、揺れることができたんだね」「よかった、うれしかったと思う」などと発言している。 ＜発言(態)＞
展開 ② 15分	3 読み方を工夫して音読する。 ○登場人物の願いがかなった感じが出るように、読み方を工夫して音読する。前時までにタブレットで録画した音読の様子も見る。[☆] ・「ゆれる、ゆれる、おどる」はゆっくり読むと、うれしい感じが出る。 ・「こんにちは」は元気よく読むと、うれしい感じが出る。	●前時までに学んだことも生かして考えられるように、「踏ん張っている感じが出るような音読」「残念そうな感じが出るような音読」など、前時までの音読を録画したものを見せる。 ◇願いが叶ってうれしいという様子で、音読している。＜音読の動画(思)[記]＞ ◇語のまとまりごとに音読している。＜音読(知)＞

展開（８／８）時間目

(1) ねらい

好きな登場人物の気持ちになって、音読することができる。

(2) 準備

電子黒板、移動式ホワイトボード、ワークシート、タブレット、めあてなどの掲示物、視点のカード

(3) 展開

時間	○学習活動 ・予想される児童（生徒）の反応 [☆]：ICT活用	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ●個に応じた支援 ◇評価項目＜方法（観点）＞ [記]：記録に残す評価
導入 10分	1 めあてをつかむ。 ○デジタル教科書の音読を、話の始めから終わりまで聞く。[☆] ○教師の説明を聞いて、本時の場面とめあてを知る。 ・今日は登場人物の気持ちを振り返るんだな。好きなところの音読もするんだな。	○まとまりごとに内容を捉えられるように、話全体の中で、どのまとまりを取り上げるのか確認する。 ●取り上げるまとまりが分かりやすいよう、話全体を一つの紙の上に表し、今日の部分を枠で囲む。 ◎必要感のあるめあてを設定できるよう、指導内容系統表Ⅱの「めあての設定のポイント」を参照してめあてを設定する。
	[本時の学習課題]（めあて） すきなばめんをえらんで、そのとうじょうじんぶつになったとおもって、おんどくしよう。	
展開 ① 15分	2 登場人物の気持ちを振り返る。 ○「なんといったかな」「どうしていったのかな」といった視点を記したカードを見て、登場人物の気持ちを考える。 ・「ふきのとうは外が見たかったんだよ」「春風は眠かったよ」などと発言している。	○視点ごとに登場人物と様子を結び付け、視点を記したカードを掲示する。ワークシート上でも「ふきのとう—外が見たい」というように、登場人物と様子を結び付ける。 ●つながりが分かりやすいよう、ワークシート上の項目を直線的に配置する。 ◇本文を読み、視点を記したカードを見ながら、「ふきのとうは外が見たかったんだよ」「春風眠かったよ」などと発言している。＜発言（態）＞
展開 ② 10分	3 読み方を工夫して音読する。 ○好きな場面を選んで、音読する。 ・みんなの願いがかなったところを読もう。 ・「こんにちは」は元気よく読むと、うれしい感じが出るよね。 ○本時の音読を録画したものを見る。 [☆]	●客観的に工夫を考えられるように、タブレットで動画を録画し、見られるようにする。 ◇「早く溶けたかったんだよ」「眠かったんだよ」と、登場人物の気持ちを発言し、その気持ちを表すような調子で音読している。＜音読（知）（思）＞
まとめ 10分	4 「ふきのとう」を音読してきた感想を発表する。 ○登場人物になったと思って音読した感想を発表する。 ・みんなの願いが叶ってうれしい気持ちで読んだことが楽しかったです。	●発表しやすいように、話型を表すカードを用意する。